第 2016-10 号

恵みと真理のニュース

2016 年 3 月の一次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

[証]　祈りを聞いてくださり、病気を治してくださった神様に感謝します

母一人で教会を通い熱心に信仰生活をしていた1985年に私は生まれました。母が私を妊娠した時お腹の中で逆にあったそうです。その事実をして父は早く手術を進めましたが、母は切に祈って神様の恵みで私を安産して父がイエス様を信じて教会に行くと約束をしたそうです。

私のため母は切に祈って当会長の牧師から祈りを受けました。神様の恵みで私は健康で生まれて、父も約束したとおり教会に行ってイエス様を救い主と受け入れました。母のお腹の中にいる時から神様の特別な愛を受けました。

私が30歳になる年会社で健康検診がありました。検査をした結果左ののどがむくんでいました。超音波の検査とct撮影など様々な検診を受け医師に左の琳派線がむくんでいると言うと医師は琳派線は単純に疲れているからむくんでいるみたいでそれよりも甲状腺が異常があると再検診を受けるように勧めました。始めは甲状腺の病気と言うと一般的な病気と思って心配しなかったです。しかし、もしやと思って家の近くにある甲状腺専門外科に行って組織検査を受けました。一週間が過ぎて結果を聞くため一人で病院に行きました。ところが担当医師は組織検査の資料を見て“甲状腺癌3期であり、腫瘍の大きさが大きくてもう進行されているようだ。”早ければ早いほど手術をしたほうが良いと言われました。

その話を聞いた瞬間、私は驚くって信じられませんでした。何も言わず診療室から出てきて家族に話しました。しばらく、なぜこんな事が起きたのか。ふだん体力だけは最高だと思ったのになぜ癌になったのか、しかも、癌3期とは？と思って何日間悲しくて憂鬱でした。

そのときには主を考えることもなく一人の考えでとらわれて辛くて大変な時間を送りました。そんな私に力になってくれたのは家族でした。

検診した病院で手術を受けようとしたが大きい病院で手術を受けたほうが良いだろうと思った時、執事からかんなんの有名な大学病院の教授を紹介してくださいました。

その病院で再び精密な組織検査を受けましたが結果は同じでした。“なぜ、今病院に来ましたが。”と言われるほど状態が酷かったです。腫瘍の大きさが3センチになって右も癌細胞で左にも腫が多くて大きいから両方切開しなければならないです。琳派線がむくんだのも癌細胞と琳派線の組織が交わっているからだと言われました。手術をしたらまた組織検査をするが、もし開腹手術をした時、状態が悪いと琳派線まで切らなければならないと言われました。そして、手術日を決めました。

もうこれからは祈りしかなかったです。切に主の助けを仰ぎながら祈りました。血流症を患った女がただ神様を信じる信仰で手をだして癒されたように私もそのように主が治療してくださるのを信じ祈りました。

週術を受ける3日前、当会長の牧師がカンナン聖殿の祝福聖会を導くため来られました。牧師に会って案手祈りを受けるようになって嬉しかったです。神様、牧師の祈りと祝福の祈りを通して私を治してくださるのだと期待と希望で充満になりました。礼拝が終わって自分の事情をしている聖徒が私を配慮してくださって一番先に牧師から祈りを受けることが出来ました。

私の状況を牧師に話をすると牧師は私の頭の上に手をあてて神癒の祈りをしてくださいました。祈る時に主が私の傷を受けた心と痛かった体を治してくださるようでした。全能なる神様を考えると心が平安になりました。牧師は母に“神様が治療してくださったのを信じて心配しなくて心を強くしなさい。”と頼みました。 手術のため入院して次の日の昼くらい手術室に入りました。4時間くらいかかると予想しましたが、麻酔と手術で3時間もかからなかったです。恐れていた琳派線は甲状腺組織11個が混ぜていましたが癌はなかったです。おかげで琳派線の切開はしなくて3センチくらいの癌組織を取り外すため5センチしが切開しなかったです。全てが神様の恵みでした。手術を受ける前から回復する間、教会の教役者達が病院に来られて私のため祈ってくださいました。神様の恵みで早く回復されました。

手術を受けてから1年になります。今は健康に生活をしています。神様の恵みで健康になったから大胆な信仰で、主に対する愛で熱心に主と教会を支えながら主から任命された教師の職分を忠誠で担えます。当会長の牧師と私のため祈ってくださった全ての聖徒達に感謝し神様に全ての栄光を捧げます。イエスは、「この種のものは、祈りによらなければ決して追い出すことはできないのだ」と言われた。（マルコによる福音書　9：29）信仰に基づく祈りは、病人を救い、主がその人を起き上がらせてくださいます。その人が罪を犯したのであれば、主が赦してくださいます。だから、主にいやしていただくために、罪を告白し合い、互いのために祈りなさい。正しい人の祈りは、大きな力があり、効果をもたらします。（ヤコブの手紙5章15,16節）

[信仰コラム]　その日が近さを見るほど

″…ある人たちがいつもしているように、集会をやめることはしないで互に励まし、かの日が近づいているのを見て、ますます、そうしようではないか。″(ヘブル人への手紙 10:23~25)

本文の″その日″は、キリストが再臨する日を意味します。 その日が不信者たちには神様の怒りが臨む日であり、審判を受ける日がなって、信者らにはキリストの拘束の恩が体にまで及ぼすことになって復活する日となります。 すべての人に必然的に歩み寄る″その日″がまだあります。 この世を去った死の日がまさに″その日″です。 自分に必然的にてくるようになる″その日″を備えて毎日をどう生きるべきかを私たちは考えなければなりません。 本文でその三つの要点をご覧ください。

第一に、約束をして下さったのは忠実なかたであるから、わたしたちの告白する望みを、動くことなくしっかりと持ちつづけようしました。

″私たちが信じている通″を一つ一つすべて列挙すると多くあります。 その中で非常に核心的なものはイエスの弟子ペトロの信仰告白にあります。 ″神様はキリストであり,生きていた神様の息子です。″ペトロのこの答弁は簡単だが完全な信仰告白です。 神様が罪人を救援するために彼の御子に任務をいただいて時が詰まったときにその任務を遂行するように世に送りました。 イエスは父なる神がこの世に送った永遠の神の息子で唯一の救援者です。 今日の使徒信条はペトロの告白から始まったものと歳月が流れ、いろいろな部分がそこに添加されて削られて私たちが信じている聖書の内容、福音の本質的な真理を簡潔に圧縮した信仰告白です。

世の中には私たちのこのような信仰告白を揺さぶることがあります。 その中には患難による苦痛、逼迫による苦痛と寂しさ、世の中の享楽と富貴功名の世俗的な誘惑があります。 これに対して私たちがどのように対処しなければいけませんか。 ″約束をして下さったのは忠実なかたであるから、わたしたちの告白する望みを、動くことなくしっかりと持ちつづけ″としました。 私たちの信仰告白には復活の願望、天国願望、主の前に立つ日、称賛と賞を受けることになる望みが内包されています。 このような望みは世の中が与えられず、奪って行けない願いであり、必ずしも行われる望みです。

第二に、愛と善行とを励むように互に努め、としました。

聖徒は、自分の宗教だけよく維持すればいいと考えないで信頼の兄弟姉妹たちが信仰生活を上手になるように助けなければなりません。 他人の信仰生活を支援するため、力を入れば、自分の信仰も活力にあふれることになります。 一方、利己的な態度を取れば、自分の信仰は衰えています。 そして、他者を猜忌嫉妬して陥れようとして讒訴する愚かな行為をすれば、自分の心霊が荒廃することになります。 反面、積極的に他の人の愛と先行を激励することをすれば、イエスを嬉しく呼び立てしてイエスから賞賛と賞を受けることになります。

第三に、ある人たちがいつもしているように、集会をやめることはしないで互に励ますようしました。

聖徒らは教会が定めた日礼拝をするために集まるのに力を注がなければなりません。 集まることをおろそかにすれば、最初の頃は心が安らかではありません。 繰り返すようになると当たり前になっており、結局、習慣になるます。 したがって、集まることをなおざりにする人を見て賢く権免れなければなりません。 聖徒の集まりによく参加しているのは、自分にとっても教会共同体にすべて有益なものです。 神様は聖徒の集まりを貴重に思って救いの約束をくださいました。

″また、よく言っておく。もしあなたがたのうちふたりが、どんな願い事についても地上で心を合わせるなら、天にいますわたしの父はそれをかなえて下さるであろう。ふたりまたは三人が、わたしの名によって集まっている所には、わたしもその中にいるのである。″(マタイによる福音書 18:19、20)しました。

歳月はとどまらず、ずっと流れます。 私たちがいつ天国に呼んてされか分かりません。 イエスが私を迎えに世の中にまたいらっしゃるその日がだんだん近づいています。 皆さんは″その日が近さ″をいつも思いながら信じている通の望みを固く握り合って、お互いに振り返ってみて愛と先行を激励し、集まることをさらに力を入れてください。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

神霊な情報と開かれた目

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

聖書にはイスラエルと関連がある国と民族だけ記録されました。 その中にアラムの国があります。 アラムとイスラエルは善隣友好関係の時と敵対的な関係の時がありました。 アラムという名称はスリア人であるしあるいはスリアという民族と国に対するヘブル式の名称です。 アラム民族の先祖はナホルでナホルはアブラハムの兄弟です。 ナホルの孫がアラムです。 イサクとヤゴブは皆アラムの女と結婚しています。 ところで族長の時代以後アラムは約 500 年の間聖書に登場しなかったり主前 11 世紀末の頃サウルがイスラエルを統治した時期にイスラエルに対して敵対的な関係でまた登場します。 タビテの時代にはイスラエルに征服されて朝貢をささげている途中ソロモン時代の末期に自主権を回復しました。 アハブ王が北王国イスラエルを統治する時期にはアラムがイスラエルをしばしば侵攻しました。

その頃にイスラエル国にはエリシャ予言者がまぶしい活動をしました。 アラム王が作戦指示をおろせばエリシャ予言者がこれを分かってイスラエル王に知らせてくれたからいつもイスラエルが有利な戦略を広げました。 この事実が分かるようになったアラム王はエリシャが生きているドタン城に軍隊を送ってエリシャを逮捕して来なさいと言い付けました。 王はそこに馬と戦車および大軍をつかわした。彼らは夜のうちに来て、その町を囲んだ。神の人の召使が朝早く起きて出て見ると、軍勢が馬と戦車をもって町を囲んでいたので、その若者はエリシャに言った、「ああ、わが主よ、わたしたちはどうしましょうか」。エリシャは言った、「恐れることはない。われわれと共にいる者は彼らと共にいる者よりも多いのだから」。そしてエリシャが祈って「主よ、どうぞ、彼の目を開いて見させてください」と言うと、主はその若者の目を開かれたので、彼が見ると、火の馬と火の戦車が山に満ちてエリシャのまわりにあった。

スリヤびとがエリシャの所に下ってきた時、エリシャは主に祈って言った、「どうぞ、この人々の目をくらましてください」。するとエリシャの言葉のとおりに彼らの目をくらまされた。

アラム軍隊の馬と戦車と多くの軍隊がドタンを囲みました。 予言者エリシャの召使が朝早く出て見たら軍隊と馬と戦車が城を囲んでいました。 彼が恐ろしくて震えてエリシャ予言者にこれを知らせると予言者は泰然自若に言いました。 “恐ろしがらない。 私たちと一緒にいる人が彼と一緒に一者より多い。” それなのに召使が恐ろしがるとエリシャが召使のために祈りました。 “エホバよ、彼が見られるように彼の目を開いてください。” 神様がエリシャの祈祷をきいて召使の目を開いてくださいました。 その瞬間召使は火の馬と火の戦車がその山に一杯でエリシャを取り囲んでいることを見ました。

アラム軍隊がエリシャに向けて下る時エリシャが祈るのを “あの群れを打って目が見えなくならせてください。” としました。 神様がやはりエリシャの祈祷どおり回答なさいました。 エリシャが彼らに言いました。

“ここはあなたたちの探す城ではないから私の後を付いて来ます。 私があなたたちが探す人に連れて行ってくれなさい。” それからはアラム軍隊をイスラエルの首都サマリアに連れて行きました。 彼らがサマリアに到着したらイスラエル軍隊が囲みました。 その時エリシャが祈るのを “エホバよ、この人々の目を開けてみさせてください。” としました。 神様が彼らの目を開くので彼らがサマリア都城の真ん中にあることが分かるようになりました。 この奇妙で驚くべきな事件の記録には私たちが得なければならない神霊なメッセージがあります。

エリシャ予言者がアラム軍隊の作戦情報を前もって分かってイスラエル王に知らせてあらかじめ防備した事実に神霊なメッセージがあります。

戦争での勝利と敗北は正確な情報獲得と情報活用能力によっていると言っても過言ではないです。 ところでエリシャ予言者は何の手数や費用もなしに完全な情報を手に入れたわけです。

戦争だけではなくこの世を生きるには多方面で質の高い情報を獲得するのが切実に必要です。 そして私たちが見逃すことができないことがまたあります。 人生は霊的戦争を経験しているという事実です。 その対象は罪と悪魔と死亡です。 これらと争って勝つ可能城は全然ないです。 学問、技術、体力、善行、修養、苦行、宗教の意識その何も無用の物です。

ところで解決策があります。 その情報は人が研究するとか作り上げたのではなく神様がくださったのです。 これは神様が啓示なさったお言葉である聖書です。 聖書は人生を幸せと勝利に導く膨大な情報を持っています。 人々の今世と来世のために聖書のより膨大で正確と決定的に重要な情報を与える本はないです。 聖書には天地万物の創造から始めて人類の歴史の終末までさらにはその後までの情報が皆啓示されています。 その中で一番重大な情報は罪とサタンと死亡に対して勝利する方法に対する情報です。 誰でもイエスキリストを自分の救い主に信じて迎接さえなせばなると言う情報です。 イエス様が十字架に釘付けて死んで墓から復活するのに罪と悪魔と死亡の権勢を破砕なさって勝利しました。 イエスキリストを信じる人はその存在の位置がイエスキリストの中に移されます。 そしてイエスキリストにあってくださる勝利を享受するようになります。 こんな情報が聖書に啓示されています。 そして聖書には生の知恵と神霊な生活に関する情報が一杯です。 聖書の情報を私たちがそのまま受けて信じて従順すれば必ず成功的な人生になります。

エリシャ予言者が彼の召使のために “エホバよ彼が見られるように彼の目を開いてください。” と祈った事実に神霊なメッセージがあります。

エリシャはアラム軍隊の馬と戦車と軍隊が囲んだことを見て真っ青になっていた召使に説明しないで “エホバよ彼が見られるように彼の目を開いてください。” と祈りました。 神様が召使の目を開いてくださると火の馬と火の戦車がその山に一杯なことを召使が見ました。 召使は視覚障がい者ではなかったです。 神様が召使の目を開いたことは肉体の目ではなく霊の目を開いてくださったのです。 そしてエリシャがアラム軍隊に対して “あの群れを打って目が見えなくならせてください。” と祈ったら神様がエリシャの祈祷どおり回答なさいました。 しかし彼らが視力を喪失するようになったのではないです。 彼らがサマリアに到着したらイスラエル軍隊が囲みました。 あの時エリシャが祈るのを “エホバよ、この人々の目を開けてみさせてください。” としました。 神様が彼らの目を開くので彼らがサマリア城の真ん中にあることが分かるようになりました。

聖霊様は聖書に記録された貴い情報を正しく認識するように心の目を開きます。 “この賜物について語るにも、わたしたちは人間の知恵が教える言葉を用いないで、御霊の教える言葉を用い、霊によって霊のことを解釈するのである。”（コリント人への第一の手紙，2:13）としました。 だから私たちは聖書に記録された神霊な情報を正しく悟らせてくれと聖霊様に切に求める心で聖書を読んで説教をきかなければなりません。

エリシャ予言者が召使に言うのを “われわれと共にいる者は彼らと共にいる者よりも多いのだから” と言いました。 ここに神霊なメッセージがあります。

召使はエリシャ予言者が言うことをきいて理解ができなかったです。 それでエリシャが召使のために祈ったのです。 神様がエリシャの祈祷をきいて召使の目を開いてくださいました。 その瞬間召使は火の馬と火の戦車がその山に一杯なことを見ました。 アラム軍隊の馬より火の馬が多かったです。 アラム軍隊の戦車より火の戦車がもっと多かったです。 アラム軍隊より天軍がもっと多かったです。

もし悲観する心になって気落ちになったら心の目を開いてくれと神様に祈ってください。 皆さんにいないものなどより神様が皆さんに与えるものなどがもっと多いことを悟らせてくださるでしょう。 もし不平と恨みが生じたら心の目を開いてくれと神様に祈ってください。 皆さんにいないものなどより神様から受けたものなどがもっと多いことを悟らせてくださるでしょう。エペソ人への手紙，1 章にこんな祈祷文があります。 “どうか、わたしたちの主イエス・キリストの神、栄光の父が、知恵と啓示との霊をあなたがたに賜わって神を認めさせ、あなたがたの心の目を明らかにして下さるように、そして、あなたがたが神に召されていだいている望みがどんなものであるか、聖徒たちがつぐべき神の国がいかに栄光に富んだものであるか、また、神の力強い活動によって働く力が、わたしたち信じる者にとっていかに絶大なものであるかを、あなたがたが知るに至るように、と祈っている”（エペソ人への手紙，1:17～19）.

聖徒の皆さん、アラムの馬と戦車と軍隊を見て圧倒されないでください。“われわれと共にいる者は彼らと共にいる者よりも多いのだから” エリシャ予言者のメッセージを心に留めてください。 神様が皆さんに与えるものなどがもっと多いことを察してください。 失った物より神様から受けた物がもっと多いということを認識してください。 それがうまくできなかったら祈ってください。 “聖霊様、私の心の目を開けてみさせてください。” と切に求めてください。

要点を整理します。

1. 聖書は人生を真の勝利と成功で進ませる完全な情報で一杯です。 このような情報の核心はイエスキリストです。 そして聖書に啓示された情報をそのまま信じて従順する人は究極的な成功と勝利を得るようになります。
2. 多くの知識と経験を持っても霊の目が開かれなければ見られないものがあります。 神霊なことは聖霊が私たちの目を開いて見せてくれればこそ分かるようになります。
3. “神様がくださったのが私たちが喪失したより多い。” このことが分かれば平安と喜びを持って明るい心で神様を期待しながら生きて行くことができます。

このようなメッセージが皆さん皆にいつも実在的な経験するように願いします。